

## 自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を見えやすいところに掲示して、普段から確認することですべての職員が理念を共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。	事業所の理念は、事務所やホール、職員トイレに掲示され、日常的に職員や来訪者に共有されている。また具体的なキャッチフレーズとして、名刺等に「お年寄りを敬う」が掲げられている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事や役割には可能な限り参加している。また挨拶や声掛けなど気軽にできる関係ができています。	自治会に加入し、地域との繋がりも深い。コロナ禍において、以前行われていた交流等の活動は難しくなったが、区長に散歩コースにある広場での休憩場所の相談をすると、早速ベンチを設置してくれたエピソードあり。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	村内の見守りネットワークに登録している。認知症についての相談や疑問があれば答えている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	最近ではコロナのため書面での報告になっているが、写真入りの新聞と一緒に添付している	メンバーは、'家族・区長・隣組長・民生委員・役場職員・中学校・駐在所・社協デイサービス職員・グループホーム職員'である。コロナ禍において、集合での会議はされていないが、代替で偶数月に書面での報告と新聞を送付している。	コロナ禍において、集合会議は難しい状況と言えます。書面報告は委員の意見が、聞きにくいという難点があり、可能な場合オンラインの活用等の工夫を検討される事を期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くように取り組んでいる。	役場から連絡や問い合わせがあればすぐ対応している。また、運営上の留意点やサービス提供について指導を仰いでいる	徒歩圏内に村役場があり、随時担当者の訪問や連絡に対応している。指導や空床時の連絡等の相談を実施する等、日常的に連携がとれている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	庭からは外に出れない様フェンスを張っているが、夜間以外は玄関を含め建物から外に出る扉に施錠をしていない。また、身体拘束しないケアに努めている。	昼間、玄関の施錠はされていない。隣接の畑に自由に出かける利用者もある。現在入所後10日程度の利用者について、居宅からの継続と家族の希望により、4点柵を実施した。記録と毎日の見直しを行い、現在は、L字バーで開放し観察することにより開放に向けている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修や虐待事例などを周知し虐待防止に努めている。職員の接し方に難があれば注意し、身体の状態は入浴時など観察している		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人を利用されてる方がいるので、実際に関わりながら職員と情報共有している。また、支援が必要そうなら家族に制度について説明している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の契約時に家族と読み合わせ、特に重要な部分は説明し納得してから捺印してもらっている。改定があれば本社から通知を郵送し同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族から何か要望等あれば気軽に電話やメールをできるような雰囲気づくりをしている。	現在、家族の面会は居室で対応している。以前は家族会もあったが、コロナ禍においてやっていない。ラインの活用や電話等で意見や要望等を聞いている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員から意見を出せる雰囲気作りをして日頃の業務中でも意見がある様なら時間を作っている。月1回の職員会議にて意見提案を聞くようにしている。	職員の意見や相談もしやすい雰囲気作りがされている。また、職員会議等において提案された事項について、運営へ反映もされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の生活背景を理解し、勤務時間の調整等就労環境の整備をし超過勤務や残業がないようにしている。また、スキルアップや資格取得で昇給できるようになっている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	受けれる研修があれば通知し、資格の取得も促している。地域ケア研修会や社内研修などの研修の機会も確保している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域ケアの研修の通知を出し、参加を促す。また近所のデイサービスと折々に交流している		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	安心してもらうために対話を多く行い、不安や要望等あれば対応している		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族とはLINEでも連絡が取れるようになっていたため、気軽に要望等言える環境作りをしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時の話し合いで本人の直近の様子や希望を確認し、どう対応していくか家族と相談、提案している。職員で課題分析を行いニーズに対する対応が出来る様努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	各人の出来る事と出来ない事を見極め、出来ること、少しの支援で出来そうなことを積極的に行ってもらっている。会話の中で持ちつ持たれつ関係を作れる様努力している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	書類申請や通院などは基本家族に行ってもらっている。施設での生活状況や課題を報告し、また家族の生活状況の変化についても収集している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今はコロナ禍の為面会制限しているが、通常は家族以外でも面会できるようにしている。ドライブの際に馴染みの場所を通ったり家族に面会依頼を行ったりしている。	コロナ禍において、家族以外の面会は、現在制限しているが、ドライブの際、馴染みの場所に立ち寄り馴染みの関係が途切れない様になっている。職員の定着率が高く職員との馴染みの関係性も構築されている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	大きなテーブルに向かい合って座るようにして有り、自由に会話を楽しんでいる。必要時に職員が間に入り会話を広げたり、互いに声を掛けやすい関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も相談等あれば気軽に寄ってもらう様声掛けし、情報交換等行なえる関係を保っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	やりたいことや希望を適宜本人に確認している。生活の中の会話で要望があった場合、都度職員が検討し実現できるよう努めている。	日々の会話から、一人ひとりの意向を随時確認しながら利用者主体のケアを行っている。表出できない利用者については、いくつか選択肢を提示し、そのなかで手を出されたものを実施している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	思い出を語る機会を作り、本人に昔の思い出を聞いたり、家族に確認している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日個別に日誌を付けており、それ以外に特記がある場合には個別記録に詳細を記入し、職員間で共有している		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランに基づいた援助計画を作成し、毎日評価し、現状や改善することを職員会議や朝の申し送り時に確認している	ケアマネージャーを中心にチームで利用者のニーズに即したアセスメントから評価までのケアマネジメントの過程を行っている。殊にモニタリングについて様式を作り、毎日具体的に○×で実施状況を記録している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	特変があれば日誌のほかに個別記録に記入し、共有することは職員連絡帳に記入している。毎日モニタリングの評価を行っている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族や本人が思いを伝えられるような雰囲気づくりに努め、自宅への外泊や外出などが柔軟な支援ができるよう心がけている		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近くに図書館があるので利用したり、ボランティアの訪問をお願いしている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医があり、月1回往診があることを説明したうえで、希望の病院を決めて頂いている。	重要事項説明書に明示された心療内科の開業医が協力医として、月1回往診している。他科については、本人や家族の意向を踏まえて医療機関を決め適宜受診している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護は月4回あり、利用者の状態についての報告や相談を行っている。24時間オンコールにて緊急時対応と健康管理について相談・助言をいただいている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の地域連携室や担当看護師等と情報交換し、利用者への適切な処遇について話し合えるよう努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に看取りについて施設で出来る事出来ない事の確認をしている。また、急変した場合に改めて看取りについての確認をし、本人にとって一番いい方法や環境作りに努めている	入所時に、家族と急変時や看取りの確認を書面で行っている。また重度化した場合改めて確認をとっている。訪問看護や役場等とも十分な情報共有と連携がなされている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎年末に社内研修で救命救急の講習を受けている。緊急連絡網を作成し速やかに連携できるよう備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回災害や火災に備えた避難訓練・通報訓練を実施している。緊急連絡網の訓練も行っている	現在コロナ禍において、消防署立ち合いの防災訓練は実施していないが、年2回の防災訓練を実施。そのうち夜間想定通報訓練を行っている。	防災訓練の実施において、火災だけでなく想定される災害について、反省・課題・見直しまで踏み込んだ検討とその記録、近隣の協力体制やマニュアルの見直し、併せてBCPの作成を今後期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	施設内研修にて接遇や個人情報保護について学ぶ機会を作っている。個人情報の取り扱いの徹底に努めている。	入浴や排せつケア等において、同性介護を希望される利用者について、職員間で検討のうえ同性介護を実施。 姓で呼ぶことを基本としているが例外的に同姓の方が複数いる場合は名で呼んでいる。 個人情報保護の取り扱いにも注意している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の会話の中で思いや希望を探ったり、自分で決定できるような場面を提供できるよう心がけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	各々のペースで生活して頂けるように余裕のある過ごし方をして頂いている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に外部の理髪師に来て頂き、本人の希望に合わせて整えている。また季節に合わせた服装が出来る様支援している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節の旬な物を提供し、誕生会や記念日、行事食メニューなど提供できるように努めている。また、野菜の皮むきなどの下ごしらえや、味付けの相談など行っている	利用者の要望をとり入れている。隣接の畑で穫れた旬の野菜を使用したり、行事食・郷土食等手作りで美味しく、また利用者と下ごしらえ等を一緒にいき、楽しく味わうことのできる食事の提供がされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各々の状態や嚥下能力に合わせた食事形態やペースで提供し、摂取量は個別に記録し職員間で周知できるようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	個人の能力に合わせた介助や声掛け、見守りをしている。義歯は毎日洗浄剤につけている。		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を設けて排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう誘導や声掛けを行っている	排せつチェック表による、一人ひとりの排せつパターンによる声掛けや誘導、また日課に合わせた定時誘導もされ、自立に繋がっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日本体操を行い、水分や食物繊維等できるだけ摂取できるよう支援している。必要時は下剤の調整も行っている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	基本的には入浴日を決めているが、本人の体調や希望によって日や時間をずらすなど柔軟に対応している	曜日を決めて週2回の入浴を基本としているが、本人の希望やタイミングに合わせた柔軟な日時の変更も実施している。また自立支援の工夫も行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	適度な運動を取り入れメリハリのある生活リズムを作る事が心がけ、夜間の安眠に繋がっている。また、体調に合わせて日中でも静養時間は自由に取って頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容は職員は把握しており、いつでも確認できるようファイルの場所も周知している。薬の変更や観察経過の情報の共有にも努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴や会話の中から、趣味や得意なことを把握し出来る事を楽しんで頂いている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	花見など四季に合わせた外出計画をたて、自然の景色や空気を楽しめるよう支援している。日常でも畑の世話や近所の広場まで散歩に行っている。	コロナ禍であるが、隣接した畑に行ったり、天気の良い日は近くへ散歩や図書館等に出かけている。またバラ園の見学等のドライブも計画し、行っている。	

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>家族の意向を確認し、可能な方のみ本人に任せている。施設の生活や行動範囲ではお金を使う機会はほとんどない。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望に応じて電話が出来る様支援している。また、オンライン面会もでき、希望者には職員が付き添い面会している</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共有空間を広くとり車いすの移動も楽にできる様な環境作りに努めている。季節に合わせた装飾やキッチンでの調理が見えたりと、生活感や季節感を感じられるようになっている</p>	<p>共有スペースには、季節を感じ取れる七夕飾りや利用者の作品、行事の写真等が壁面に飾られ、台所の調理の様子が見え、心地よく、その音や匂い等五感で感じることができる。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>利用者の関係性を考慮し席の配置をしている。利用者によっては居室で一人で過ごしたり、仲のいい利用者と2~3人で居室で会話を楽しんだりしている</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅で使用していた小箆笥や家族写真、神棚、思い出のぬいぐるみ等を傍に置き、落ち着いた生活が出来る様支援している</p>	<p>居室は、一人ひとり設えが異なり、家族の写真や神棚等馴染みの物が置かれている。窓からは田園風景が見え、自宅を彷彿とさせる落ち着いた環境が工夫されている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>安全に配慮しながら各々の能力に応じた支援に努めている。残存能力を低下させないための工夫を職員間で検討・実施し自立した生活が出来る様支援している</p>		